

西小 五年生 大森 一弘

ぼくが、田中野田に、ひっこしてきたのは、小学校二年の、ときでした。そして、田中野田子供会に、入って、ソフトボールに、入りました。むこうに、いたときは、ようちえんのときから、サッカーばかりやっていたので、ソフトボールのことは、なにも、わかりませんでした。でも、だんだん、おもしろくなってきました。

二年生のときは、Bチームの、セカンドを、まもって、いました。三年生のなかばごろ、Aチームに、あがりました。

そして、四年生になって、あたらしいユニホームを、もらいました。四年生になって、セカンドを、まもっていて、そのあと、サードを、まもりました。

ぼくが、四年生の、時、市子連に、行きました。

みょうきょう寺と、し合いを、やりましたが、4対2で、まけました。でも、市子連に行けたことは、わすれません。去年は、せいせきがよくありませんでした。

今年は六年生になります。ソフトボールもさいごなので、一生けんめいがんばって、少して、もつよいチームになりたいです。

白寿会 会長 和氣 勇

明けましておめでとございます。

町内の皆様におかれましてはご家族共々におだやかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。又昨年中は老人会活動に対し何かとご協力を賜りありがとうございました。又今年もどうぞよろしくお願致します。

さて我国は今や人生80年の時代を迎えており、高齢者の福祉の充実が重大な課題となって参りました。そうした中において我々老人会としては市民各界・各層の温かいご理解とご協力を得て若い人々と手を携えながら、誰もが安心して生きがいを持って暮らせる、平和で豊かな長寿社会を築いて行けるよう、頑張っていくと決意も新たにしております。

当白寿会の会員の皆様もゲートボールをはじめ銭太鼓や公民館の高齢者教室の各種行事等々に、積極的に参加されて活躍されておられます。

一方、町内の美化運動・空缶集め・カーブミラーの清掃・公園の草取り等のボランティア活動にも力を入れ頑張っておるところであります。又今年は適当な時期を選んで親睦旅行でもと考えております。

昭和61年より始めました田中野田区画整理事業ですが、現在平成6年完成を目指して急ピッチで工事が進められております。道路・水路・橋梁などの工事と下水道工事が同時に行われているため外に出るとあちこちに危険な状態で、又迂回して通らなければならないので大変であります。今しばらくしんぼうが必要と思われませんが、事故のないよう気をつけたいものです。

完成したら環境のすばらしい新しい町が生まれる訳ですが、その半面、昔の古い面影が次々と消えて行く事は何となく淋しくもあります。

終わりにりましたが、皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

「新年の抱負」

北長柳町内 堤 国夫

謹んで新年のお祝詞を申し上げます。

田中野田の皆様方には、輝かしい新年をお迎えになられたことと心から喜び申し上げます。

県外へ出られておられる方も年に一度の家族団らんの一時をテレビを見たり、ゲームをしたりでお過ごしのことと思います。

私も大晦日の夜は、この1年家族全員大きな病気もなく元気で過ごせた事に心から感謝をしお神酒をいただきながら家族とテレビを見ていました。歌番組不調のTV界ですので普段は全くと言って良い程歌番組を見る機会もありませんが、大晦日だけは、チャンネルを色々変えながらも、昔は国民的番組と言われた紅白歌合戦をなんとなく見ておりました。今回は、白組堺正章・紅組浅野ゆう子と言うフレッシュなコンビで司会が行われ大変良かったと、私は思いました。特に浅野ゆう子さんは、こう言った大舞台での司会と言うのは初めてだと思いますが非常に落ち着いていた、あかぬけた進行役で、又歌手の紹介での一言一言感心させられました。それ以上に感動させられたのが、都はるみさんと和田アキ子さんでした。

和田アキ子は、年末の骨折でまだ笑ってもひびいて痛いそうだが紅組のトリを絶唱で飾り、涙をこらえて歌う姿は、大変美しいものでした。又都はるみさんの力のこもった歌には身震いする思いで見入ってしまいました。歌の題名は、よくわかりませんでした。特撰の坂田三吉と女房の小春の生きざまを歌った歌でした。聞いていてこの人は本当に歌に対して命懸けやな一とカッコ悪い話ですが男ながら感動のあまり目頭が熱くなるのを覚えました。この二人の姿に改めて完全燃焼の美しさ、一生懸命の尊さを学ばせてもらいました。

私か昨年七月に京都の大徳寺へお客様を連れて訪れた折、その住職のお話で印象に残っている言葉があります。

「その日を精一杯がんばった人に、明日を思いわずらう必要はない。明日の結果が気になるのは、自分の持てる力をその日精一杯出しきれないからだ。」

この言葉と前の二人の姿がだぶって映りましたが改めて、私の今年の抱負として、仕事に、スポーツに、地区の活動に全ての面で、「一生懸命」「完全燃焼」この姿勢をあげたいと思います。最後に手前味噌になりますか私の好きな詩を皆様を紹介しペン置きたいと思いますが、どうか本年もよろしく御指導の程お願い申し上げます。

「本気」  
本気になると  
世界が変わってくる  
自分が変わってくる  
変わってこなかったら  
まだ本気になってない証拠だ  
本気な仕事  
本気な仕事  
ああ 人間一度  
こいつ つかまえることには  
竹内 巖



わが郷土を語る (その13) 中尾 佐之吉

古里で知られていない知名人「原 虎一」さんのこと

「岡山人名事典」に原 虎一さんのことがつぎのように記載されている。

原 虎一 1897-1972 (明治30-昭和47)  
明治30年11月16日御津郡今村(現岡山市)に生まれる。早稲田工手学校卒、労働運動に入り労働総同盟中央執行委員、東京市会議員をつとめた。戦後昭和22年日本社会党より第1回参議院議員選挙に全国区で当選、参議院労働委員長となる。  
昭和47年7月3日没、年76。

出身地を「今村」とあるが、わが町内の生まれである。生家は現在ない。生家のあつた所は、大森 郷さん宅の南で今は27米道路(大元一辰巳線)になっている。

小学校を卒業すると直ぐ上京された。徴兵検査で帰郷されたこともあろうが、郷里との交流は希薄で戦前の活動状況は殆ど知られていなかったようである。

戦後、虎一さんが参議院議員になられたことが知れたときには、この地区の者はびっくりしたことだろう。議員になられてから一度墓参に帰郷されたことがあるようだし、私の父は虎一さんと1年歳うえて幼なじみだったためか、その後時々文通もあつたらしく何枚かの年賀状も残っている。それによると、昭和31年頃は社会党中央執行委員、昭和35年頃は日本労働会館理事長をしておられる。私は、虎一さんを全然しらない。話にきくだけである。せめてこの人の声でも聞きたかったと残念に思う。

編集後記

この「ふれあい」新聞は昭和62年から始まったのです。当時、技能開発センターの「井出正成」さんのご厚意で、パソコンを使つての印字からコピーまでの作業を全部引き受けてやってくださったのです。それからずっと現在まで、井出さんが転出されても引続き発行できたのは皆さんのお陰なのです。印字は敷内さん、植田さん、上中田さん、濃野さんの奉仕で、コピーは上中田さん、栗本さんのお世話になりました。

私にとつての最後の編集を終えるにあたって、改めて厚く御礼申し上げます。

なお、私の「回顧15年その3」はスペースがなくなつたので掲載を省ぶかしてもらいます。(中尾 佐之吉)